

主 題：信仰の成長を目指して6、希望における成長2
聖書箇所：ピリピ人への手紙 3章10－12節

今日、私たちはピリピ人への手紙3章10節から12節まで「希望において成長する」というテーマで、みことばを一緒に学んでいきます。パウロは私たちに、我々信仰者がどの時代にあっても、どの場所にあっても、彼の信仰に倣って歩んで行くことを望んでいます。私たちには素晴らしい模範が存在する訳で、その模範に倣って歩んで行くようにと勧めている箇所です。

☆希望をもって歩んでいくために

I. 歩みの動機

これまでパウロの歩みを見て来ましたが、確かに、彼の歩みのその動機は素晴らしいものでした。敢えて「動機」ということを言うのは、しっかりした正しい動機をもっていなければその信仰の歩みは疲れていくからです。一生懸命やっても動機が弱いとその働きがいつの間にか形だけのものになっていきます。それは皆さんも経験なさったことでしょう。一生懸命奉仕をしているけれども、内側がだんだん渴き切っていく、内側がだんだん弱っていきます。パウロの歩みを見た時に、彼の歩みはそうではありませんでした。最後の最後まで、彼は力強くその信仰者としての歩みを全うしました。そこには必ず秘訣があるのです。というのは、彼が歩んだように私たちも歩むことができるのです。何度も皆さんに話すように、過去のことはどう振り返っても仕方がないことです。もう過ぎ去ったのです。私たちは過去を振り返って「あの時はこうだった」などと言うのは止めて、今からどのように生きていくのかを考えることです。明日があるかないかも分かりません。分かっていることは、今日というこの瞬間を神が与えてくださっていることです。ですから、今この瞬間をどう生きるかです。少なくとも、私たちはパウロの歩みを見て、そのような歩みをしたいと決心して、今日この場を出て行くことです。

A. 救いの喜び 7－8節

7節と8節を見ると、パウロの心の中には救われたことの喜びがいつもあったということが教えられています。ということは、私たちが自分自身に問いかけなければいけないことは「私は本当に救われたことを喜びながら今日を生活しているかどうか」ということです。どうですか、皆さん？罪が赦されてこの救いに与ったことを私たちはどれほど感謝しているでしょう？彼は救われたことに関して8節で「すばらしさのゆえに」と言っています。「私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、」と。イエスによって救われたことは余りにもすばらしすぎて、何ものにも比較することができないと言うのです。私にとって一番嬉しいこと、それはイエスによってこの救いに与ったことであると、それがパウロがここで告白したことでした。この「救い」とは、並外れた余りにも優れた、私たちの考えるあらゆること、私たちの能力や期待や理解、それらをはるかに超えたものである。ことばにできないほどすばらしいものであると、パウロ自身そのように私たちに告白しています。ですから、先ず、あなたが自分自身に問いかけなければいけないことは、「私は本当に神さまによって救われたことを感謝しながら今日生活しているかどうか」ということです。皆さん、もし、そのことが感謝できていないなら、心のうちに罪があるのです。よく自分の心を吟味することです。

B. 救いの希望 8b－9節

次に私たちが見たのは8節の後半から9節にかけて、彼は救いの希望をもって歩んでいたということでした。救われた者、つまり、イエスを得た者は「キリストの中にある者と認められている」とそのような表現が使われていました。パウロが望んだことは、このキリストを益々より深く知っていくことです。キリストによって与えられたその祝福のすべてを、主があなたや私に与えてくださったその祝福のすべてを、より鮮明により深く知りたいと望んでいたということを見て来ました。正直言って、それは一生かかることですね。なぜなら、私たちの罪深さをとっても神は徐々に私自身の本当の姿を見せてくださり、時間とともに私たちは自分に対する信頼を失っていくからです。かつては自分の人間的なものを誇っていたとしても、信仰が成長するに従って、それがいかに虚しいものであるかということを教えられていきます。それは神が与えてくださる恵みの一つです。救われることのすばらしさ、罪が赦されることのすばらしさ、私の罪をイエスの上に転嫁して、イエスの義が私のうちに転嫁されたという、そのような神の救いの恵みを一つ一つ見ていくことによって、私は何とすごい救いを頂いたのか、何とすごい神が私の神なのかということを知っていくのです。でも、そのためには時間がかかるのです。私たちが望むことは、信じたその瞬間にすべてを知ることですが、そうはいかないのです。だから、私たちはみことばを通して神のすばらしさ、その祝福のすばらしさを教えられ、また、学び続けていくのです。

そして、私たちはすばらしい希望を持って今日生きています。今日もし死んでも私たちは生き返ります。そして、私たちは栄光のからだを頂いて、この方とともに永遠を過ごすという約束を受けています。信仰者の皆さん、それを考えるだけで私たちは「神さま、感謝します、アーメン！」と言いませんか？強制されてではなく「本当に神さま、あなたが私にくださった恵みはすばらし過ぎる」と。イエスが十字架の上で成してくださったみわざを見る時に、そのみわざがすべて私のためであったことを覚える時に、私たちは「主よ、感謝します。アーメン、神さま！」と言うのです。今、このことを敢えて言うのは、パウロがそのように生きていたからです。もし、あなたがそのような生き方と違う生き方をしているなら、どこかに問題があるのです。繰り返しますが、罪があるのです。その罪は私たちが喜ぶべきことを喜べないようにするのです。私たちが誇るべきことを誇れないように、また、誇らないように罪はするのです。なぜなら、サタンが一番望んでいるクリスチャンは、喜びのない感謝のない希望のない人として生きているからです。

パウロは希望を持っていました。この罪のからだから栄光のからだに変えられるその日がやって来るからです。もう罪で悩むことはなくなる、神を悲しませることが一切なくなると、その日を彼は待ち望みながら生きていました。それはまた、今日もみことばを見る時に教えられることです。ですから、まず彼はどのようにして歩んでいたのか、その動機を教えてくださいました。救いの喜びを持って、そして、希望を持って生きていたと言います。あなたもそのように生きていますか？

II. 実際の歩み 10-12節

次に、10節から12節では彼の実際的な歩みを見ていきます。パウロは今私たちが見て来たように、救われたことを喜び、救われた者に与えられている希望を持っていましたが、それをただ喜んでいただけではありません。それを実践に生かしたのです。そのように彼は生きていったのです。実は、私たちにとってその部分が大切です。どのように生きていくかということです。救いというのは、最終目的地に到達することではないのです。救いは「新しい人生のスタート」なのです。人は救われたらそれで終わりであるかのように思ってしまうかもしれませんが、違います、皆さん！私たちはそこから本来あるべき生き方を始めていくのです。神があなたに望んでいる生き方をその時点から始めていくのです。それが救いです。

マギーという博士がいました。ロサンゼルスで長年牧会をされ、大きな働きをされた先生がこのように言っています。「もし、キリストにあるあなたの信仰があなたを変えていないなら、あなたは救われていなかったのである。」と。非常に衝撃的なことばですが、皆さんは驚かないでしょう。なぜなら、私たちはいつもそのことを学んでいるからです。なぜ、そのように言い切れるのですか？みことばが教えることだからです。ヤコブのみことばを思い出してください。ヤコブの手紙2：18に「さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行いを持っています。行いのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行いによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」と、彼は行ないによって救われると言っているのではありません。でも、本当の救いには行ないが伴うと言っているのです。ですから、新しい歩みをしなければいけないのではないのです。神があなたを救ってくださったのなら、そこが鍵です！あなたが自分で救われていると思っていても、神が救ってくださらないならその救いは本物ではないからです。自分はクリスチャンだと思っている人は山ほどたくさんいます。でも問題は、神が救ってくださり、神がその人を生まれ変わらせてくださったかどうかです。救いは神からのギフトです。神が与えてくださるものです。私たちが努力して得るものではないのです。努力しても得ることのできないものなのです。

パウロは神の恵みによって救いに与りました。どうしてそのように言えるのか？彼の生き方が一変したからです。そのことを見ていたパウロのことをよく知っていた連中は、そのパウロの豹変ぶりに驚くのです。この人にいったい何が起こったのか？と。クリスチャンでさえも驚きました。クリスチャンを迫害するためにやって来たはずなのに、今度は、イエス・キリストが神だと言って、クリスチャンたちが宣べ伝えていたメッセージを語る者になったからです。パウロは生まれ変わったのです。パウロは救われたのです。そのパウロが私たちに言うのです。「新しく生きていくというその新しい歩みはどのようにして歩むべきものなのか？」と。もちろん、神がその人を救ってくださった時に、神はその人にそのような歩みをして行きたいという思いをくださるのですが、それを実践するためには、私たちは今から見ていくことをしっかりと覚えることが必要です。今、このメッセージがなぜ大切なのか？私たち日本人はどちらかと言うと、多くのことを知りたがり、知ることに満足してしまう傾向があるからです。これだけのことを知った、これだけの知識を蓄えた、これだけの質問に答えることができると、問題はそのようなことではありません。問題は「どのように生きているか？」です。

このように考えたことがありますか？イエスを信じる皆さん一人一人、神はあなたを使ってくださいます。私たちは何ををするのですか？あなたの神がどんな神であるかをあなたを通して周りの人々に明らかに

することです。神があなたを通して何をしようとしているのか？あなたを通して、この全知全能の真の神がどのような神であるのかを世に明らかにすることです。ということは、私たちはどのようにこの神のすばらしさを世に証しているか、そのことを考えなければいけないのです。私たちはどのような神を世に示しているでしょう？人々があなたを見た時に、そこにどのような神を見ますか？確かに、非常に厳しいことを話しています。でも、大切なことでありこれは真理です。あなたも私もこの世にあって、私の神はこのような神なのだということを、私たちの生き様をもって明らかにしているのです。より鮮明にイエス・キリストがあなたを通して明らかにされていくために、あなたには聖霊が与えられ、聖書が与えられ、そして、あなたは日々聖霊によって変えられ続けています。この世にあって、この神のすばらしさを証するためにです。

皆さん、考えたことがありますか？どんな神を私は世に証しているのだろうか？と。ある人は、もしかすると、新月の夜かもしれません。月が全く輝いていない。光である神のその光を反映していないのです。三日月かもしれない、ごくわずかだけ…。でも、この中にいらっしゃるでしょう。満月のようにイエスのその光を反映している方が…。人々があなたを見た時に「イエスさまはこのような方だった。神さまってこういう方なのだ。」と、私たちのことばに行ないに、すべての点においてその通りであると。もちろん、私たちは失敗する者です。私たちはみな不完全です。でも、不完全な中にあっても神の前に正しく生きていこうとしているのです。神はそれを喜ばれ、そして、私たちを通してご自身を明らかにしてくださるのです。神はそのように私たちを使ってくださるのです。でも、そのためには、私たちはどのように歩んで行くべきなのか、パウロのことばに耳を傾けなければいけません。パウロは私たちに必要なことを教えてください。

A. 主の力によって生きる 10 a 節

10節の初めに「私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、」とあります。正しい動機をもって歩もうとしていたパウロのその歩みは神の前に喜ばれる歩みでした。なぜなら、パウロは「主の力によって生きていたからだ」と最初に言うのです。繰り返しますが、彼のすばらしかったところ、私たちが学ばなければいけないところは、主の力によって、神の力によって生きるということです。パウロはそのことをこの10節で言いました。「私は、キリストとその復活の力を知り、」と、この「知る」とは、8節で見たように「キリスト・イエスを知っていることのすばらしさ」のより詳しい説明をしているのです。実は、ここでパウロが教えるこの「知る」とは知的なことではありません。どれだけの知識を持っているか、これだけ神学的教育を受けたと、そのようなことを言っているのではありません。この「知る」とは「経験を通して知る」ということです。

パウロは「私はキリストをもっと知りたい」と言っているのです。キリストがどのようなお方なのか、私の神がどんなお方なのか、そのことをもっと知りたいと言うのです。そのような願いをした背後には、パウロ自身がイエス・キリストを心から愛していたことが明らかに伺えます。自分の愛する人のことをもっとよく知りたいと思うのは当然のことです。また同時に、「キリストとその復活の力」と言っています。パウロはここで「主イエス・キリストの復活の力によって私は生きている。また、生きていきたい。」と告白しているのです。キリストの復活の力をもっと経験を通して知りたいと。イエスの御力を考えた時に、イエスがこの地上におられたときにそれは人々の前で明らかに示され続けて来ました。主イエス・キリストのうちにどんな力があるのか、覚えておられるでしょう。

*主イエスの御力

(1) 悪霊たちが服従

彼が命じたなら、あの悪魔、悪霊たちでさえもその命令に服従しました。マルコ1:34「イエスは、さまざまの病氣にかかっている多くの人をいやし、また多くの悪霊を追い出された。そして悪霊どもがものを言うのをお許しにならなかった。彼らがイエスをよく知っていたからである。」、1:39「こうしてイエスは、ガリラヤ全地にわたり、その会堂に行って、福音を告げ知らせ、悪霊を追い出された。」、悪霊を追い出したということです。主が命じたら悪霊は去ったのです。彼らは主の命令に従ったのです。また、イエスは12使徒たちにも悪霊を追い出す権威をお与えになりました。3:14-15「そこでイエスは十二弟子を任命された。それは、彼らを身近に置き、また彼らを遣わして福音を宣べさせ、:15 悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。」と。イエスが持つておられた悪霊を追い出す力を弟子たちにもお与えになったのです。その中でも最たるものはルカの福音書8章に記されている出来事かもしれません。イエスと弟子たちがゲラサ人の地方に行った時に、レギオンという悪霊につかれていた人物からその悪霊を追い出した時のことです。悪霊は豚に乗り移って豚は湖で溺死したという出来事です。なぜ、レギオンと呼ばれていたのか？大変な数の悪霊がその人物にとりついていたのであるとそのようにみことばが教えています。主イエス・キリストが命じたなら彼らはそれに従ったのです。ですから、悪魔や悪霊たちが服従する力を、主イエス・キリス

トはもっているのです。

(2) 自然が服従

イエスが命じると嵐も風も止んだとルカ 8 : 22 - 25 に記されています。「そのころのある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。:23 舟で渡っている間にイエスはぐっすり眠ってしまわれた。ところが突風が湖に吹きおろして来たので、弟子たちは水をかぶって危険になった。:24 そこで、彼らは近寄って行ってイエスを起こし、「先生、先生。私たちはおぼれて死にそうです」と言った。イエスは、起き上がって、風と荒波とをしっかりとつけられた。すると風も波も収まり、なぎになった。:25 イエスは彼らに、「あなたがたの信仰はどこにあるのです」と言われた。弟子たちは驚き恐れて互いに言った。「風も水も、お命じになれば従うとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」、私たちも何回かのイスラエル旅行のときにそのことを経験しました。カペナウムに向かって行こうとするときです。今はモーターがついている船ですが、今でも突風が吹き始めると危険なので船は引き返します。ですから、約二千年前のその当時、人々が吹き込んで来る突風によって身の危険を感じたということは想像がつかます。それでもイエスは眠っておられた。弟子たちは面白いことを言います。「先生、先生。私たちはおぼれて死にそうです」と、一番に溺れて死にそうなのは眠っているイエスです。でも、彼らは自分たちの身を案じてイエスにそのように言います。「イエスは、起き上がって、風と荒波とをしっかりとつけられた。すると風も波も収まり、なぎになった。」のです。25 節「イエスは彼らに、「あなたがたの信仰はどこにあるのです」と言われた。弟子たちは驚き恐れて互いに言った。「風も水も、お命じになれば従うとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」、皆さん、忘れていませんか？あなたの主は命じるなら自然界までも服従するのです。そのようなお方です。

(3) 死も服従

皆さんがよくご存じのように、あのラザロがなくなった時に主イエス・キリストは「ラザロよ、出て来なさい。」と大声で命じました。ヨハネ 11 : 43 - 44 「そして、イエスはそう言われると、大声で叫ばれた。「ラザロよ。出て来なさい。」:44 すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたままで出て来た。彼の顔は布切れで包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」、みな分かっていました。もう四日も経っているから彼の体はもう腐り始めている、大変な匂いがしますと言います。しかし、イエス・キリストは「出て来なさい」と命じました。主イエス・キリストが命じるなら死でさえも服従するのです。それ程力のある方です。

(4) 人を生まれ変わらせる御力

そして、私たちが言えることは、イエス・キリストによって人は生まれ変わるということです。人を生まれ変わらせる御力がこの方にはあるのです。イエスはニコデモに対してこのように言われました。ヨハネ 3 : 3 「イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」と。イエスには人を生まれ変わらせる力があるからこのように言われたのです。そして、ニコデモは生まれ変わりました。私たちを生まれ変わらせてくれるのです、新しく造り変えてくれるのです。そのような御力を持ったお方です。

(5) 永遠のいのちを与える御力

もう一つ付け加えるなら、ヨハネ 10 : 28 「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」と、イエスはこのような宣言をされました。イエスにはそれが可能だからそのように宣言できたのです。「神があなたたちに永遠のいのちを与えてくれます。」とは言っていない。イエスが言われたのは「わたしは…」です。「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。」、その権威がご自分のうちにあることを明らかにされたのです。

また、ヨハネ 11 : 25 では「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」と言われました。これが私たちの希望であり、これが私たちに約束されたすばらしい真理なのです。私たちは死んでもよみがえると、その希望を持って生きているのです。なぜなら、主イエス・キリストにはそれを行なう力があるからです。これはあなたと全く無関係な神のことを話しているのではありません。イエスの恵みによって救われているなら、これはあなたの神です。これはあなたを救ってくださった神です。その神に備わっている御力のことです。

もう一度ピリピ 3 : 10 のみことばを見てください。パウロは「キリストとその復活の力」と言っています。つまり、パウロは「キリストの復活の力を知りたい」と言うのです。なぜでしょう？パウロが神に喜ばれる歩みをして行くためにパウロにはこの力が必要だったからです。そして、あなたや私にも同じようにこの力が必要なのです。ローマ 6 : 4 を見てください。「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。」。私たちは新しい歩みをする事ができるのです。そのような者に生まれ変わったからです。そのことを見て来ました。それは可能だと言うのです。

そして、そのような歩みを為していくために必要な力は神にあると言います。私たちのうちには罪に勝利する力はありません。だから、自分の力で罪に勝利しようとするといつも失敗するのです。私たちはもうそれに疲れました。何回失敗して来たでしょう？いい加減にレッスンを学ばなければいけないのです。私たちのうちには罪に勝利する力も死に対する勝利の力も存在していないのです。主に喜ばれる歩みを為していくためのその力もないのです。主のみことばに従い続ける力もないのです。主の栄光を現わし続ける力も私たちのうちには備わっていないのです。それが可能になるのはこの主の御力を頂くことによつてのみのです。パウロはそのことを教えているのです。なぜなら、キリストは最も困難な私たちにはどうすることもできない死に打ち勝たれたお方だからです。

死はイエス・キリストをその死の中に留めて置くことができなかったのです。イエス・キリストはその死から敢然とよみがえって来られました。死に死を宣告なさったお方なのです。考えてください。我々がどうすることもできないで、ただ恐れていた死に対してイエス・キリストは死を宣告したのです。「おまえは死んだ。お前は人間に恐れをもたらしことはもうできない。わたしがその死からよみがえることによって、わたしを信じるすべてのものは同じようによみがえる。」と。その力が私たちには必要なのです。そして、その力が私たちには与えられるのです。だから、パウロは「私はこのキリストの復活の力をもっと体験していきたい。その力によって私は勝利者としてさらに歩み続けていきたい。」とそのことを望んでいたのです。お分かりになりましたね、皆さん！あなたにもその力が与えられるのです、あなたもパウロが生きたと勝利者として歩んで行くことができるのです。あなたもパウロが生きたと、神の栄光を現わしながら生きていくことができるのです。あなたもこの世にあって、あなたの神がどんなに素晴らしい方であるかを、パウロがそうであったように、世に証しながら生きていくことが可能なのです。そのすべてを可能にしてくれるのは主の力なのです。

だから、パウロはあの復活によって示されたイエスのその力を頂きながら私は生きていきたいとそのことを望んだのです。あなたがこの世にあって、主に喜ばれる歩みを為し続けていくために必要なのはこの主の力です。その力があなたのために備えられているということです。私たちはなぜそれを求めないのでしょうか？プライドかもしれません。自分はこれだけのことをしたと自慢したいのかもしれません。愚かなことです。もう気付かないといけません。自分の力に頼って生きる人生には失敗しかないのです。なぜだか分かりますね？自分の力に頼って生きる人生は、神の栄光を現わすことがないからです、自分の栄光を現わす人生だからです。そのような人生を神が祝福するはずはありません。「神さま、あなたの助けが必要です！」と私たちは助けを求めながら生きる時に、主の御力が働かれ、そして、主のみわざがなされ、主の栄光が現わされていく。パウロはそうにして生きたのです。私たちもそのことを学ぶことです。

B. 主を信頼して生きる 10b、11節

主の力によって生きるだけでなく、私たちは「主を信頼して生きること」が必要です。10節の後半から「またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、:11 どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。」とパウロは言います。

1. キリストの苦しみにあずかる

まず、10節の後半「またキリストの苦しみにあずかることも知って、」を見ていきましょう。この「あずかる」とは、もちろん、「参加する、関与する」という意味もありますが、ここでは「交わる」という意味のギリシャ語のコイノニアが使われています。では、何に参加する、何に関与する、何に交わることなのでしょう？このみことばが私たちには教えているのは「キリストの苦しみに」です。それに参加すること、それに関与すること、それに与っていくこと、それと交わることです。ですから、ここで言われている「キリストの苦しみに」とは、イエスが十字架で味わったその痛みとは違うことは明らかです。なぜなら、それができるのは主だけです。私たち罪人に救いをもたらすためにイエスが十字架で苦しまれた、それは主だけができることです。私たちにはできません。私たちはみな罪人だからです。

では、この「キリストの痛み」とは何のことでしょう？これは、私たちイエスを信じる者たちが経験する信仰における様々な迫害のことです。信仰者として私たちが日々経験する様々な痛みです。ルカの福音書21:12にイエスが「しかし、これらのすべてのことの前に、人々はあなたがたを捕らえて迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために、あなたがたを王たちや総督たちの前に引き出すでしょう。」と言われたことが記されています。もう教えられていました。必ず、あなたたちは大変な痛み会遇到。また、ヨハネ15:20にも「しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。」と書かれているように、イエスが迫害されたように私たちも迫害されることはみことばが教えていることです。

パウロ自身、そのことを体験していました。このピリピ人への手紙の中でも私たちはそのことを学んで

来ました。特に、1：29を見ると「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。」と書かれています。そして、彼は投獄生活を送っていたのです。パウロは迫害さえも実は益であると教えました。それはパウロ自身も学んだことでした。

*パウロが迫害が益であると言う理由

例1. ピリピ1：13－14

「私がキリストのゆえに投獄されている、ということは、親衛隊の全員と、そのほかのすべての人にも明らかになり、：14 また兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことにより、主にあって確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆に神のことばを語るようになりました。」、パウロが投獄されたのはどうしてか？「私がキリストのゆえに投獄されている」とあります。彼はイエスを信じイエスに従って行こうとした、それゆえに、迫害を経験したのです。しかし、パウロは言います。「このことを通してすばらしいことが起こった」と、二つのことを挙げています。

(1) 福音が広がった

パウロは言います。「私はイエスに従って行った結果、投獄されることになったけれど、実は、投獄されることによってすばらしい神のみわざがなされた。一つは、それによって福音のメッセージが広まった。この親衛隊の人たちの中に福音のメッセージが広がっていった。」と。福音を聞くチャンスなどなかった人たちがこの福音を聞く機会になったということです。そのようなことは私たちの周りにも見られることです。神は思わぬ人に出会わせてくださって、その人に福音を語る機会が与えられたこと。パウロは言うのです。神はちゃんと働いておられる。こうして自分が捕えられ投獄されることもすべて神の御手の中にあったこと、だからこそ、ローマの親衛隊が福音を聞いたと言うのです。

(2) 福音宣教が盛んになっていく

もう一つ言えることは、福音宣教が盛んになっていくということです。14節に「また兄弟たちの大多数は、」とあり、そうでなかった者たちもいるわけですが、大多数の者は「私が投獄されたことにより、主にあって確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆に神のことばを語るようになりました。」と、このようなすばらしい祝福がもたらされたのです。パウロの歩みを見ている者たちが「我々も彼に倣っていこう」とするのです。なぜなら、どのような時でも主がともにいてくださり、そして、どのような時でも神は私たちを用いてくれるという確信を得たからです。もし、今いろいろな迫害を経験されている人がいるならば、その迫害が実際にいのちを狙われるようなことでなくても、イエスを信じイエスに従って行くゆえに、いろんな摩擦を経験されている皆さん、いろんな辛い目を経験されている皆さん、あなたがたはそのような状況でしか学べないことがあるのです。そのような中であって、あなたは主がともにいてくださることを学んでおられるでしょう。主が身近に感じられ、主が本当に私をあわれんでくださり、私のうちに働いておられることを経験なさっておられる人はたくさんいらっしゃるでしょう。

神は失敗を犯されない方です。今、あなたがおられるところ、それが本当に辛いと思えることであっても、主はあなたといっしょにいてくださるのです。「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。」と、ヘブル4：15に書かれています。あなたの経験されているそのすべての苦しみをイエスは経験なさったと言うのです。だから、あなたのすべてことを分かってくくださるのです。あなたのすべてを分かっておられる方がそのように導いて、そして、あなたを用いようとしてくださっているのです。

例2. IIコリント1：3－10

「私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。：4 神は、どのような苦しみのおきにも、私たちを慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。：5 それは、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれているからです。：6 もし私たちが苦しみに会うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためです。もし私たちが慰めを受けるなら、それもあなたがたの慰めのためで、その慰めは、私たちが受けている苦難と同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えるのです。：7 私たちがあなたがたについて抱いている望みは、動くことはありません。なぜなら、あなたがたが私たちと苦しみをともししているように、慰めをもとにしてしていることを、私たちは知っているからです。：8 兄弟たちよ。私たちがアジャヤで会った苦しみについて、ぜひ知っておいてください。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、ついにはいのちさえも危くなり、：9 ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟しました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。：10 ところが神は、これほどの大きな死の危険から、私たちを救い出してくださいました。また将来も救い出してくださいます。なおも救い出してくださいという望みを、私たちはこの神に置いているのです。」、パウロはこのように記しています。大変な苦しみに会ったこと、そのことを私たちも今こうして見て来しました。

(1) 主が慈愛と慰めの神であることを学ぶ機会 3－5節

つまり、彼が経験したいろんな困難は、彼の神がどれ程慰めと慈愛に満ちあふれた方であるかということとを学ぶ機会であったと言うのです。先にも話したように、そのようなときでしか学べないことがあるのです。ひとりぼっちでいるとき、辛いとき、悲しいとき、痛みを抱えているとき、「心配しなくてもいい、わたしがいっしょにいるから」と、主はそうように私たちにご自身が慈愛と慰めを持っておられることを教えてくださるのです。

(2) 人々を励ますことを学ぶ訓練の機会 4、6節

大変なところを歩いていかれた皆さんは、大変なところを歩いている人たちを励ますのです。イエスにあっての希望を持っていない人たちはたくさんいます。絶望の中を歩いている者たちはたくさんいるのです。そのような人たちを、もうすでに同じようなところを歩いていったあなたが彼らを励ましてあげると言うことです。そのようなことを学んでいく訓練の機会だと言うのです。そのことが4節と6節で言われているのです。

(3) 主への信頼を学ぶ機会 8-10節

ですから、パウロはこう言うのです。イエスを信じイエスに従っていこうとするときに、いろんな迫害が訪れる、いろんな困難がやって来る、いろんな難しい問題がやって来る、でも、恐れることはない。主がともにいてくださるから、全能なる神がともにいてくださるから、慈愛と慰めの神がともにいてくださるからと。パウロは今見て来たように、このようにして神と歩めることがどんなにすばらしいのか、しかも、大変な状況にあっても、絶望を感じるような中にあっても、神がともにいてくださり、そして、そこにあって神が耐え抜く力を与えてくださり、しかも、そのすべてのことを神は用いて、あなたの信仰の益としてくれると言うのです。だから、苦しみに会うことは私たちにとって益なのです。それを通して大切なことを学ぶのです。

残念ながら、私たちはそのような状況に陥らなければ、プライドの高い私たちはいつまで経っても神に助けを求めていこうとしないのです。「できる、できる、やらなきゃ、やらなきゃ、」と、その結果、私たちは神から教えられ続けるのです。「あなたにはできない、あなたにはその力がない。」と。罪深いあなたや私がすべての点で神を喜ばせ続けることなど不可能なのです。パウロが言ってくれたように、このように神に喜ばれる歩みをしてきたパウロが私たちには言うことは、「その力は私たちではなくて神にある。その神の力を頂きながら生きなさい。」と、そのことを彼は私たちに教えてくれるのです。神に力があります。その力は与えられるのです。でも皆さん、その力を頂いて生きるためには、日々私たちはその方を信頼して生きなければいけないのです。あなたが今置かれている状況の中で、その大変な苦しみや問題を主に感謝することです。それは大切なすばらしい貴重なレッスンの機会だからです。そうしてあなたが主に信頼することを主は教え続けてくださっているかもしれないのです。主の力に頼って生きることを、あなたに教え続けてくださっているかもしれないのです。しっかり学ぶことです。信仰者の皆さん、私たちは主の力によって生きるのです。主に信頼を置いて生きていくのです。その時に、私たちはこの世に私たちの神のすばらしさを証できます。そのために私たちは救われました。それなら、そのように生きることです。

希望を失っている信仰者の皆さん、どうぞ、しっかり主を見上げてください。今一度主が与えてくださる希望を持って生きてください。弱ってしまうのではなくて、主の力によって強くあってください！この一週間も遣わされていく様々なところにあって、この主こそが私たちの力であり、私たちの神であることを是非、証してください。あなたのことばをもってあなたの生き方をもって。

《考えましょう》

1. みことばを「生きる」こと、すなわち、実践することによって「キリストを知る」ようになるとありますが、それはどういう意味ですか？
2. 「キリストを知る」ことがどうして重要なのでしょうか？
3. パウロが主に願った、「完全にされる」とはどういうことですか？
4. どうして「完全にされること」を願いながら生きることが重要なのでしょうか？